

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

					No.	14-016	
PDCA	事務事業名	ごみ減量対策事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター ごみ減量担当	担当	榊原	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (1) 資源循環型地域社会の形成 個別施策： ①3Rの普及・啓発					
	根拠法令等	半田市生ごみ堆肥化容器設置奨励補助金交付要綱					
	対象・目的	市民及び事業者に対して、ごみ出しルールの徹底とPR及びごみ減量につながる再利用施策の普及に努め、ごみ排出量の減量化を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	生ごみ堆肥化容器等設置奨励補助金の交付 アスパの無料配布 家庭用剪定枝粉碎機の貸出 家具等リユース事業（もったいないバザール）の開催					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位
		①生ごみ堆肥化容器等設置奨励補助金交付基数		29	47	61	基
		②家庭用剪定枝粉碎機貸出件数		26	19	24	件
		③3Rアドバイザー会議		2	2	2	回
		事業費		5,104	4,420	5,057	千円
		人件費		25,062	28,642	29,630	千円
		総事業費		30,166	33,062	34,687	千円
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位
		①生ごみ堆肥化容器等1基当たり補助金		8,428	8,723	9,894	円
		②3Rアドバイザー活動用消耗品（帽子、軍手他）		248,724	219,348	330,108	円
	成 果	成果指標		29年度	30年度	元年度	単位
		①市民1人1日当たりのごみ量（総ごみ量）	実績値	929	919	936	g
			目標値	935	904	915	
		②市民1人1日当たりのごみ量（生活系ごみ量）	実績値	575	577	578	g
目標値			567	555	554		
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
	事業の評価・課題	D ゴールデンウィークの大型連休での持込ごみの増加や、コロナウイルス感染拡大の影響による外出自粛に伴う家庭ごみの増加により、総ごみ量、生活系ごみ量ともに目標値に及ばない結果となった。市報などが届かない自治区未加入者や若い世代の市民にも届くPR方法を取り入れ、ごみ減量の意識を持ってもらえるよう取り組むことが課題。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 従来の広報（市報・回覧など）に加え、インターネットでの動画配信など新しい方法を取り入れるほか、令和3年4月から導入する家庭ごみの有料化を機に、ごみの正しい出し方、資源の分別に対する意識を高められるよう積極的にPRする。また、令和元年10月から開始した刈草・剪定枝の資源化を周知し、家庭のごみの減量を図る。				
令和2年度の目標		成果指標				目標値	単位
		①市民1人1日当たりのごみ量（総ごみ量）				900	g
		②市民1人1日当たりのごみ量（生活系ごみ量）				530	g